

郷土の偉人を紹介するために、平成26年阿南市文化協会から「阿南市の先覚者たち第一・二集」が刊行されました。  
阿南市の発展に尽力された人たちの偉業を顕彰し、後世に語り継ぐために、27人の先覚者たちを奇数月に掲載して紹介します。

## 福者となった日本人宣教師

### ディオゴ結城

ディオゴ結城（本名：結城朝能）は1574年に阿波公方家来結城家の子として阿波国平島で生まれる。少年時代に父と共に河内国（大坂）に行き、そこでキリスト教の洗礼をうけてキリスト教徒となる。

1586年、11歳で大坂にあったキリスト教の学校に入学したが、翌年に豊臣秀吉のキリシタン禁教令もあって、長崎に移住。そこで、伊東マンショ、中浦ジュリアンと出会う。

1601年、マカオ（中国）へ留学。7年後に阿波国に戻り藩祖蜂須賀家政に接見、その後3代阿波公方足利義種とも面会した。

しかし、江戸幕府によるキリスト教禁教令が発布されたことにより、その迫害が厳しくなり、1614年に高山右近らと共にマニラ（フィリピン）へと追放となった。1616年、マニラより秘かに帰国。平島に赴き義種の妻となっていた妹の祐賀らに布教、祐賀はキリシタンとなった。しかしその3年後に幕府の禁教令が厳しくなると、祐賀は改宗。蜂須賀文書にも転キリシタンとして祐賀の名が記載されている。

日本中に迫害の手が広がる中、ディオゴ結城は潜伏。多くの宣教師が捕らわれ、ディオゴ結城は畿内最後の宣教師となったが、つい

に1636年阿波と讃岐の国境の山中で捕らえられ、同年、残酷な刑が科せられ殉教した。

時が流れ現代、2008年11月、バチカンのローマ法王庁はディオゴ結城ら江戸時代初期の殉教者たちを福者とし、列福式を行った。



ディオゴ結城顕彰碑



ディオゴ結城供養塔

※「福者」とはカトリック教会において死後、その活動や殉教などの聖なる生涯のゆえ信徒の崇敬の対象となることを教会法に従って認められた者で、福者の列に加えられる手続きを列福と呼ぶ。

#### 参考資料

「阿南市の先覚者たち 第一集」  
2014・阿南市文化協会

#### お知らせ

12月7日(土)の午前10時から11時まで「阿波公方・民俗資料館」において「阿波公方とキリシタン」をテーマに展示解説を実施します。ぜひともお越しください。詳しくは、市ホームページまで。

☆次回(令和7年1月号)の「阿南市の先覚者たち」は休載し、若杉山辰砂採掘遺跡関連情報のお知らせをします。

#### おわび

前回の阿南市の先覚者たちで「斎 辰雄」を紹介しましたが、その中で「中央大学」を誤って「中央大学」と記載していました。この場をかりておわびします。

#### 問い合わせ

文化振興課 ☎22-1798

